

語りつぐ日本の数学

第1話

小倉金之助

516

別付あり

思い出すま<sup>ま</sup>まに

私が歩んで参りました数学の道について、思い出すま  
 まにお話ししようと思うので~~ありますが~~、私は<sup>この</sup>~~今まで~~<sup>まで</sup>~~研究~~  
~~した~~自伝風のもの~~で~~「<sup>□□</sup>数学者の回想」(河出文庫)や「<sup>□□</sup>一数学者の肖像」(現代社文庫)など  
 のために<sup>↑</sup>は特に自分を中心<sup>に</sup>とするというのではなしに  
 日本~~の~~の数学の、大体の模様をできるだけ客観的にのべ  
 ました。その間に自分のことにも多少触れて~~い~~う~~こと~~と思  
 います。

517

見よ

お話しは、私が数学<sup>の</sup>研究<sup>に</sup>参<sup>り</sup>ました~~こと~~から~~出~~発した~~こと~~  
 明治の末期から大正を経て昭和の初めに~~まで~~おもに数学  
 史学ともやるようになる<sup>↑</sup>。その辺までのところ<sup>↑</sup>に限定<sup>し</sup>る。

大体

ΣA7

~~し~~ (1) ~~た~~ ~~し~~ ~~たい~~ ~~す~~ ~~な~~ ~~わ~~ ~~ち~~ 1907年ごろから 1930年ごろまで ~~お~~ ~~よ~~ ~~そ~~  
~~の~~ ~~25~~ ~~年~~ ~~間~~ ~~の~~ ~~話~~ ~~者~~ ~~中~~ ~~心~~ ~~と~~ ~~し~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~

~~その~~ ~~前~~ ~~は~~ ~~明~~ ~~治~~ ~~の~~ ~~初~~ ~~め~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~を~~ ~~中~~ ~~心~~ ~~と~~ ~~し~~ ~~て~~

日本に近代数学が成立した詳しい内容については別問題として見てもよいが、  
→ 一応日本で近代数学が成立した

数学の基礎が固まりだしたというのは、学問的に見ても、また教育的に見ても、1905年、明治35年のころであつたと、  
それは英訳であり、それからはそれより以前はどうか、と、  
これについては、

日本数学は昔に和算というものがあつたか

815



ではないので、~~さう~~古くから入~~つて~~いた~~のであります~~が、

西洋の数学が、~~さう~~本格的に入~~つて~~きた~~のは~~日本

が港を開いた年、すなわち1854年(安政5年)のこ

ろからで~~あります~~。

~~それ~~せんそく~~に~~入~~つて~~きたか~~と~~申し~~ます~~

オラ~~と~~の書物と中国語に翻訳したものに~~よ~~つて~~で~~

した。

。大多數の和算家は西洋の数学には興味を持たな

か~~つ~~た~~ので~~す~~が~~志のある人たちには多少西洋

の数学を~~取り~~入~~れ~~たり~~して~~いた~~ので~~す。

520

~~でも本格的には先ほど申し込んだ用達のころから入ってきたのでありやう。~~

~~そのころから入ってきたものも、~~ <sup>まず</sup> 第一に

オランダの書物、次にイギリス、アメリカ、フランス、ドイツの書物、<sup>から入りまし</sup> ~~オランダの書物~~、<sup>しかし、何もない</sup> ~~オランダの書物~~、オランダの書

物が読まれ、<sup>なく、</sup> ~~オランダの書物~~、<sup>主に</sup> ~~初期の~~イギリスのもの、<sup>と</sup> ~~オランダの~~後はアメリカのものも加<sup>え</sup>てありやうした。そのほか

に、~~オランダの~~明治維新前後に、<sup>語に</sup>中国で書かれた数学書、~~中国の~~中にも、~~オランダの~~高級なものもありやうしたので、~~オランダの~~そうい

~~う中国の本を讀んで勉強した人たちが多くいのでありやう。~~

が読まれました。

1872年

□ それで、いよいよ(明治5年)にいわゆる学制が發布された  
 に3には、~~数学を勉強する人たちが~~ <sup>いふんを</sup> ~~あつ~~り  
 ました。~~この数学者は~~ 唯一に和算家~~が~~ <sup>つぎに</sup>  
 和算家から洋算家に転向した者が <sup>より</sup> ~~それ~~から、陸海軍の  
 関係者 ~~あり~~ <sup>は</sup> ~~い~~わゆる蘭学者 <sup>呼ばれ</sup> た洋学者、  
~~西洋人~~ <sup>ほかに</sup> ~~が~~ <sup>お</sup>り <sup>が</sup> ~~いた~~。~~この~~ ~~当時~~  
~~の~~ ~~陸海軍~~ ~~関係者~~ ~~は~~ ~~ほとんど~~ ~~が~~ ~~洋算家~~ ~~の~~ ~~一~~ ~~つ~~  
~~として~~ ~~洋算~~ ~~が~~ ~~必要~~ ~~だ~~ ~~った~~ ~~ので~~ ~~す~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~この~~ ~~頃~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~と~~ ~~くに~~

はとくに

陸海軍

もろろん → 明治の頃

~~学校~~ 非常に不完全な

翻訳の

もので ~~出~~ した ~~本~~ ようやく小学校 <sup>では</sup> 原書の ~~翻訳~~ <sup>み</sup>

たいなもので ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ 中学や大学では

おもに原書について外国語で ~~本~~ 勉強した ~~本~~ のです。

~~本~~ 西洋人から直接高等数学を学 ~~本~~

~~本~~ 大学の最も初め ~~本~~

フランス語の物理学科 ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ した ~~本~~ これは

フランス ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ 相当高級なもので ~~本~~

~~本~~ した ~~本~~ ~~本~~ 向も ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~

大学は全部英語で統一され

32とんた ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~

523



~~へてきたのでありましたが、また最初は英語で統一さしちのびす。  
 うれし語でやる数学は、ほんの初めの3年くらいの間でした。  
 ね。それで、日本の数学は英米式の  
 のかまどとちがって差違ちがひ~~

~~□ ~~さういふわけ~~ <sup>とちがひ</sup>、1877年（明治10年）にありま  
 て初めて数学の専門の学会ができました。それは「東京  
 数学会社」<sup>□□</sup> 学会といふ名で、会社といふたのせうし。それ  
 は和算家も洋算家も含めて、いやくも数学者のたけ <sup>のたけ</sup>  
 が多い専門家が加入したのです。~~その~~  
 最初の会長となつた人たちは、神田孝平のたけ、これ~~

1977  
 15/17  
 東京数学会社  
 1877

525

は幕末の蘭学者で、明治に入<sup>つ</sup>つからは(数学<sup>学</sup>といはやめ  
 て) <sup>を</sup> <sup>と</sup> <sup>官更</sup> ~~得童~~ ~~専~~ ~~家~~ <sup>で</sup>、男爵をもら<sup>つ</sup>た  
 人<sup>で</sup> <sup>す</sup>。それから柳橋悦<sup>と</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> ~~柳宗悦~~ <sup>と</sup> <sup>い</sup> <sup>う</sup>  
 有名な民芸家<sup>の</sup> <sup>柳宗悦の</sup> お父さん<sup>で</sup> ~~は~~ ~~柳~~ ~~宗~~ ~~悦~~ <sup>は</sup> <sup>海軍の水路</sup>  
 部長を勤め<sup>て</sup> <sup>は</sup> <sup>海軍少将</sup> <sup>にな</sup> <sup>つ</sup> <sup>た</sup> <sup>人</sup> <sup>で</sup> <sup>す</sup>。 ~~ほ~~ <sup>か</sup> <sup>に</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> <sup>教師</sup>  
~~の~~ <sup>の</sup> <sup>数学者</sup> <sup>として</sup> <sup>は</sup> <sup>岡本則録</sup> ~~と~~ <sup>は</sup> <sup>会長</sup> <sup>に</sup> <sup>な</sup> <sup>つ</sup> <sup>た</sup> <sup>の</sup>  
 は以上の3人<sup>で</sup> <sup>す</sup>。 この会では、陸海軍の ~~先~~ <sup>の</sup> <sup>先</sup> <sup>生</sup> <sup>たち</sup> <sup>が</sup> <sup>も</sup>  
<sup>の</sup> <sup>勢</sup> <sup>力</sup> <sup>を</sup> <sup>も</sup> <sup>つ</sup> <sup>て</sup> ~~お~~ <sup>を</sup> <sup>し</sup> <sup>た</sup> <sup>が</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> <sup>の</sup> <sup>ほ</sup> <sup>か</sup> <sup>に</sup> <sup>は</sup> <sup>沢</sup> <sup>山</sup> <sup>の</sup> <sup>数</sup> <sup>学</sup> <sup>書</sup> <sup>を</sup>  
<sup>と</sup> ~~も~~ <sup>も</sup> <sup>つ</sup> <sup>て</sup> <sup>は</sup> <sup>陸</sup> <sup>海</sup> <sup>軍</sup> <sup>の</sup> <sup>者</sup> <sup>と</sup> <sup>は</sup> <sup>民間</sup>  
<sup>の</sup> <sup>数</sup> <sup>学</sup> <sup>者</sup> <sup>と</sup> <sup>い</sup> <sup>う</sup> <sup>人</sup> <sup>々</sup> <sup>の</sup> <sup>手</sup> <sup>に</sup> <sup>ま</sup> <sup>つ</sup> <sup>て</sup>、日本<sup>の</sup> <sup>数</sup> <sup>学</sup> ~~は~~ <sup>は</sup>

著 <sup>法</sup> <sup>し</sup> <sup>た</sup> <sup>民間</sup> <sup>の</sup> <sup>数</sup> <sup>学</sup> <sup>者</sup> <sup>(</sup> <sup>上</sup> <sup>野</sup> <sup>清</sup> <sup>、</sup> <sup>長</sup> <sup>沢</sup> <sup>魯</sup> <sup>之</sup> <sup>助</sup> <sup>の</sup> <sup>よ</sup> <sup>る</sup> <sup>な</sup> <sup>)</sup>  
 が <sup>お</sup> <sup>り</sup> <sup>ま</sup> <sup>し</sup> <sup>た</sup>。 <sup>な</sup> <sup>し</sup> <sup>て</sup>

早くかつ

といえると思

~~この計画に~~ ~~早く普及する~~ ~~よりに~~ ~~なつた~~ ~~を~~ ~~なす~~  
~~国立大学の創立~~ ~~は~~ ~~1877年~~ (明治10年)  
~~に~~ ~~開~~ ~~か~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~は~~ ~~西~~ ~~洋~~ ~~人~~ ~~が~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~ ~~か~~  
~~後~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~菊~~ ~~池~~ ~~大~~ ~~蔵~~ ~~が~~ ~~イ~~ ~~タ~~ ~~リ~~ ~~ス~~ ~~に~~ ~~留~~ ~~学~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~帰~~ ~~っ~~ ~~た~~  
~~お~~ ~~も~~ ~~に~~ ~~や~~ ~~り~~ ~~な~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~は~~ ~~東~~ ~~京~~ ~~大~~ ~~学~~ ~~の~~ ~~身~~ ~~で~~  
~~に~~ ~~留~~ ~~学~~ ~~さ~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~藤~~ ~~沢~~ ~~利~~ ~~喜~~ ~~太~~ ~~郎~~ ~~が~~ ~~加~~ ~~わ~~ ~~り~~ ~~主~~ ~~と~~ ~~し~~ ~~て~~  
~~東京大学の~~ ~~数学科~~ ~~が~~ ~~開~~ ~~拓~~ ~~さ~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~ ~~か~~  
~~自分~~ ~~で~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~的~~ ~~な~~ ~~業~~ ~~績~~ ~~を~~ ~~残~~ ~~し~~ ~~た~~  
~~これは~~ ~~お~~ ~~も~~ ~~に~~ ~~行~~ ~~政~~ ~~官~~ ~~と~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~の~~ ~~業~~ ~~績~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~り~~

東京数学会社は7年級の名を改めて東京  
 数学物理学会となり、機関誌を東京数  
 学物理学会、記事を刊行しました。(この  
 会が今日の日本数学会、日本物理学会  
 の前身です)

菊池先生は

したというよりも、むしろ学界の元老、最高指導者  
であつたといふべきで

即ち、藤沢先生のほうは、~~中々、~~ 帰国後の ~~留学中、~~ ~~その~~  
~~業績があり、~~ ~~その~~ ~~業績~~ ~~は~~ ~~た~~ ~~く~~ ~~さ~~ ~~ん~~ ~~の~~ ~~人~~ ~~材~~  
 育ったので、~~あり、~~ ~~高木貞治~~、~~吉江琢鬼~~、  
 林鶴一先生<sup>の三)</sup> ~~が~~ ~~1897年(明治30年)~~ ~~に出るま~~  
 うになり、~~た、~~ ~~私に~~ ~~1905年~~ ~~すなわ~~  
 ち明治35年<sup>ころ</sup> ~~を~~ ~~め~~ ~~て~~、~~日本~~ ~~に~~ ~~お~~ ~~け~~ ~~る~~ ~~近~~ ~~代~~ ~~的~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~の~~ ~~確~~  
 立時代と考へますのは、~~高木~~、~~吉江~~  
 二先生<sup>が</sup> ~~ドイツ留学~~ ~~から~~ ~~お~~ ~~帰~~ ~~り~~ ~~に~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~て~~、~~東京~~ ~~大~~ ~~学~~ ~~の~~  
 数学科<sup>の</sup> ~~教~~ ~~授~~ ~~に~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~て~~、~~時代~~ ~~に~~ ~~向~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~  
 ます。 ~~授~~ ~~に~~ ~~当~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~新~~ ~~し~~ ~~い~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~と~~

数学的業績

527

50 それでは教育のほうはどうかと申しますと ~~最初~~  
 明治の初めには、文部省がアヤリカ書の翻~~案~~案のほうを(算)小学  
 術書を出し、~~した~~しました。それはある意味には、~~非常~~  
 進歩的なものでした。た~~が~~が、西洋のものをそ  
 のまま日本で使うということは、なかなかおかしなもので  
 した。それは失敗に~~つ~~ついに、それ以後は文部省の検定済  
 みの書物をつかうという民間人の手には、多くは  
 できなかったのです。から、小学、中学の数学教育は、~~とい~~  
 1905年に初めて国家的な数学教育の統制が  
 あり、それが菊池、藤沢、この二人の意見に従ってや

全体的

ところか

528

られたわけでは~~な~~、これによ<sup>つ</sup>て~~は~~ 数学教育  
 は今までのよりは~~は~~ 程度も高められ<sup>た</sup>基礎<sup>を</sup> ~~とら~~  
~~たのである。~~ ~~しかし~~ ~~一方~~からい  
 いますと、西洋では19世紀が終<sup>わ</sup>って、20世紀の初  
 めですから、産業や社会の進展に伴<sup>い</sup>、今までのような  
 古い数学教育ではか<sup>ら</sup>いという~~で~~、イギリスでは  
 シ<sup>ョ</sup>ン<sup>○</sup>ペリ<sup>、</sup> ~~と~~ ドイツではフ<sup>ァ</sup>リ<sup>ッ</sup>クス<sup>○</sup>ク  
 ライン~~、~~ ~~た~~ちが新<sup>し</sup>い意味の数学教育を<sup>に</sup>注<sup>力</sup>  
~~を~~ ~~注~~ ~~入~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~意~~ ~~味~~ ~~の~~ ~~新~~ ~~し~~ ~~い~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ふ~~  
~~本~~ ~~の~~ ~~考~~ ~~え~~ ~~は~~、つまり1905年に国家的に統制された<sup>た</sup>数学

している時機なので

日本の

力強く

# 西洋の新しい数学教育運動とは

教育とは、~~その目的を達成するために必要な知識を授け、その知識を応用する能力を養うことである。~~ ~~むしろ~~ 反対の傾向をとり、たゞと<sup>もいえる</sup>~~いえる~~性質のもので~~なされた。~~ ~~した~~ <sup>しか</sup>ともかく、このようにして、1905年のころに<sup>日本</sup>の数学および数学教育とは、~~は~~一通り基礎づけられたといふことか、いえると思はれる。

~~(から、その後、このようになってきたかといふことになり、そのころ、専門教育とは、大学といわれ、東京大学のほか、京都大学が1898年に設立され、数学科もその中にあり、したがって~~



50 さて明治時代の初期にありまして、東京大学の教員  
~~科~~科は藤沢利喜次先生~~の~~主宰の下に、坂井  
 栄太郎~~東京大学物理科出身~~、高木貞治、吉江琢健、  
 中川銓吉~~数学科出身~~の諸先生の上に、教授研究  
 科~~は~~了らるゝなりました。

50 また1898年に設立された京都大学の数学科は  
 はじめ、東京大学出身の河合十太郎、三輪桓一郎とい  
 う年長の両先生~~に~~、~~加~~や、やはり東京大学  
 出身の新鋭、吉川実夫先生~~が~~、数年後は、  
 りで、明治の初期には、京都大学の卒業生、  
 なかから、和田健夫、西~~新~~の~~心~~内原春、園正造  
 の3人~~が~~、大正のはじめに、さらに松本敏三さん~~が~~  
 本加えることになったのでした。

50 しかし、このころの東京と京都でも、学生の  
~~科~~科~~は~~

77n

KOKUYO

531



~~.....~~ 数も少ないし、<sup>△</sup> 学大の  
 の意味であり、<sup>進</sup>進的とはいわれないように、~~.....~~に学  
<sup>△</sup>ていたのでも、<sup>△</sup> ち<sup>△</sup>うで、<sup>△</sup> さいう 時分に、<sup>△</sup> 1911年  
 (明治44年) ~~.....~~に仙台に東北大学が ~~.....~~ <sup>知事</sup>のれ ~~.....~~  
 学<sup>△</sup>に数学科が置<sup>△</sup>かれたので、~~.....~~ <sup>△</sup> 私もその助手  
 とな<sup>△</sup>て参<sup>△</sup>りま<sup>△</sup>したので、<sup>△</sup> これから少<sup>△</sup>し ~~.....~~ 東北<sup>△</sup>  
~~.....~~ 話<sup>△</sup>してみたいと思<sup>△</sup>います。 <sup>△</sup> ~~.....~~ 大学の数学教室  
<sup>△</sup> ~~.....~~ <sup>のころ</sup> ~~.....~~ は、<sup>△</sup> 専門の数学者といえ<sup>△</sup>ばおも<sup>△</sup>に東京  
 大学の出身者<sup>△</sup>に限<sup>△</sup>って、<sup>△</sup> ほか<sup>△</sup>に人<sup>△</sup>が<sup>△</sup>いるわけでは<sup>△</sup>ありません  
 せんから、<sup>△</sup> 東北大学の初期<sup>△</sup>は、<sup>△</sup> 東京大学<sup>△</sup>出身の林鶴一

制度

532

50

東京  
物理  
学院  
本。

~~生~~ <sup>両</sup> 藤原松三郎先生、<sup>が</sup> 窪田忠彦、~~生~~、掛谷宗一先生、<sup>両</sup>  
~~方~~ <sup>が</sup> 助教授に~~な~~、それに~~私~~人助  
 手になつて参りました。 ふんをお若い方で 林先生<sup>38</sup>  
~~代~~ <sup>が</sup> ほかはみな二十代の人たちで ~~した~~ <sup>とこ</sup>  
 ろか <sup>たか</sup> 東北大学の数学科は <sup>00</sup> ~~たか~~ 数学科ばかりでは  
 なく <sup>02</sup> 物理でも化学でも ~~若~~ 若い教授 <sup>24</sup> 助教授も  
 採用したという点も <sup>た</sup> ほかにも <sup>政</sup> 沢柳政太郎という総  
 長 ~~の~~ <sup>た</sup> 非常に進歩的を <sup>た</sup> かつ  
 民主的な精神に <sup>た</sup> <sup>た</sup> までの大学とは大々人違 <sup>た</sup>  
 ことをやりた <sup>た</sup> <sup>た</sup> 大学とい <sup>た</sup> えば <sup>た</sup> 中学から高

藤原  
先生  
が30  
歳

533

政

入学を許す

等学校を経た者であることをいふは、~~それ~~ ~~な~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ 東北大  
 学ではさういふ経歴にたいわりなく、~~入~~ ~~学~~ ~~試~~ ~~験~~ ~~に~~ ~~ハ~~ ~~ス~~ ~~キ~~  
 之すれば入れる。しかも男子ばかりでなしに、女子の大  
 学生も <sup>採用したのではありません</sup>。 ~~こ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~点~~ ~~に~~ ~~お~~ ~~き~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~日~~ ~~本~~ <sup>の</sup> ~~に~~ ~~と~~ ~~つ~~ ~~て~~ ~~は~~  
 ま <sup>事件</sup> ~~た~~ ~~く~~ ~~画~~ ~~期~~ ~~的~~ ~~な~~ ~~事~~ ~~件~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~れ~~ ~~は~~ ~~か~~ ~~り~~ ~~で~~ ~~な~~  
 く、林先生という方は非常に進歩的な方 ~~で~~ ~~な~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~  
~~自~~ ~~分~~ ~~で~~ ~~東~~ ~~北~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~雑~~ ~~誌~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~雑~~ ~~誌~~ ~~を~~ ~~創~~ ~~り~~ ~~だ~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~あ~~  
 ります。それまで <sup>創</sup> ~~数~~ ~~学~~ ~~の~~ ~~論~~ ~~文~~ ~~を~~ ~~創~~ ~~り~~ ~~だ~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~こ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~もの~~  
 に発表したかと申しますと、先ほど申しました ~~東京数~~  
 学会社 ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~社~~ ~~は~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~名~~ ~~を~~ ~~知~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~東~~ ~~京~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~物~~ ~~理~~ ~~学~~

日本では

1977

534

の「記事」に載せのり、普通でした。

会 ~~多~~ ~~く~~ ~~も~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~雑~~ ~~誌~~ ~~が~~ ~~大~~ ~~部~~ ~~分~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~か~~ ~~東~~ ~~京~~  
 又 ~~京~~ ~~都~~ ~~の~~ ~~大~~ ~~学~~ ~~の~~ ~~紀~~ ~~要~~ ~~が~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~  
 一 ~~部~~ ~~の~~ ~~大~~ ~~学~~ ~~紀~~ ~~要~~ ~~は~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~大~~ ~~学~~ ~~の~~ ~~先~~ ~~生~~ ~~に~~ ~~ま~~ ~~け~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~ば~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~て~~  
 発表 ~~さ~~ ~~し~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~て~~ ~~は~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~は~~ ~~む~~ ~~し~~ ~~ら~~ ~~用~~ ~~い~~ ~~ら~~ ~~れ~~  
 た ~~発~~ ~~表~~ ~~機~~ ~~関~~ ~~で~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~物~~ ~~理~~ ~~学~~ ~~会~~ ~~の~~ ~~ほ~~ ~~う~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~  
 の ~~こ~~ ~~の~~ ~~は~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~論~~ ~~文~~ ~~の~~ ~~数~~ ~~は~~ ~~多~~ ~~く~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~ち~~  
 か ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~は~~ ~~物~~ ~~理~~ ~~の~~ ~~宿~~ ~~か~~ ~~り~~ ~~だ~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~  
 学 ~~状~~ ~~態~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~は~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~な~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~  
 たり ~~数~~ ~~学~~ ~~専~~ ~~門~~ ~~の~~ ~~雑~~ ~~誌~~ ~~を~~ ~~作~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~は~~ ~~日~~ ~~本~~ ~~人~~  
 は ~~か~~ ~~り~~ ~~で~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~、~~ ~~外~~ ~~国~~ ~~人~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~た~~ ~~た~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~適~~ ~~当~~

たか

一般  
 読者  
 には  
 不  
 適  
 当  
 だ  
 ら  
 う

535

林先生 ~~は~~ ~~が~~

価値のある

な論文もありさうなれば、たゞ載せてやるといふこ  
 とになつたのですから、~~これは~~ まつたく予想外な成功  
 を博したのです。それからといふものは、日本の数学の  
 研究を發表する ~~人~~ 人たちの数がいふ人多くをた  
 はかりて、~~記事~~ <sup>内容において</sup> も相当すべたものから人た  
 ん出て ~~来る~~ <sup>来る</sup> 状態になつてきたのです。  
 最初はおか(か刷)になつた ~~存在~~ 存在し、林先生の  
 私費でやつていゝのですから、最初はおいふ人あれな  
 にか、350部くらい刷つて、そのうち大部分は大学  
 から買つてもら ~~て~~ <sup>て</sup> 西洋の大学なり研究所なり

するに  
いふ

5

たのであ

に寄贈し ~~ました~~ ~~と~~ ~~する~~ と、 ~~また~~ ~~を~~ 西洋 ~~大学~~ ~~研~~  
~~究~~ ~~所~~ ~~で~~ ~~な~~ ~~ら~~、 ~~そ~~ ~~の~~ ~~お~~ ~~礼~~ ~~返~~ ~~し~~ ~~の~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~な~~ ~~か~~ ~~き~~ ~~を~~ ~~た~~  
から先生は「エヒでタイを釣る」とい て お ら れ ま し た。 し か  
し こ れ は 総 長 が か わ る と、 会 計 検 査 院 か ら、 国 家 の 会 計  
制 度 上 ~~の~~ 故 障 が あ る と か 何 と か い う 横 槍 か い は い て、

林

この雑誌はとうとう大学で出版することになったのであ

か。 し か し 編 集 者 の 顔 ぶ れ は ど の 通 り で 進 ん で い い  
た の で 私 を い その 当 時 は ~~この~~ の 雑 誌 に 対 し て  
そ ん な 深 い 意 義 を い は 理 解 で き な い で、 た だ 雑 誌 を 自 分  
た ち の 手 で 一 命 に な っ て こ し ら え て、 郵 便 局 に こ そ

所

持<sup>△</sup>て いか<sup>△</sup>な<sup>△</sup>か<sup>△</sup>た<sup>△</sup>け<sup>△</sup>れ<sup>△</sup>と<sup>△</sup>も<sup>△</sup> 一切の手続はみな自分  
 ち<sup>△</sup>で<sup>△</sup>や<sup>△</sup>ら<sup>△</sup>な<sup>△</sup>お<sup>△</sup>と<sup>△</sup>な<sup>△</sup> そ<sup>△</sup>う<sup>△</sup>い<sup>△</sup>う<sup>△</sup>こ<sup>△</sup>に ~~.....~~ 喜<sup>△</sup>び<sup>△</sup>を ~~.....~~  
 働<sup>△</sup>い<sup>△</sup>て<sup>△</sup> いた<sup>△</sup>の<sup>△</sup>で<sup>△</sup>す<sup>△</sup>か<sup>△</sup> 今<sup>△</sup>日<sup>△</sup>に<sup>△</sup> な<sup>△</sup>ら<sup>△</sup>な<sup>△</sup>み<sup>△</sup>る<sup>△</sup>と<sup>△</sup> (その雑誌は  
 日本 ~~.....~~ 数学<sup>△</sup>上<sup>△</sup>に<sup>△</sup> お<sup>△</sup>け<sup>△</sup>る ~~.....~~ 大<sup>△</sup>き<sup>△</sup>な  
 仕<sup>△</sup>事<sup>△</sup>で<sup>△</sup> あ<sup>△</sup>つ<sup>△</sup>た ~~.....~~ 高<sup>△</sup>く<sup>△</sup> 評<sup>△</sup>価<sup>△</sup>さ<sup>△</sup>れ<sup>△</sup>、 西<sup>△</sup>洋<sup>△</sup>で<sup>△</sup>り ~~.....~~  
~~.....~~ 評<sup>△</sup>判<sup>△</sup>が<sup>△</sup> い<sup>△</sup>い<sup>△</sup> ~~.....~~ 発<sup>△</sup>売<sup>△</sup>所<sup>△</sup>は<sup>△</sup> 丸<sup>△</sup>善<sup>△</sup>に<sup>△</sup> して<sup>△</sup>いた<sup>△</sup>の<sup>△</sup>で  
 す<sup>△</sup>か<sup>△</sup> 丸<sup>△</sup>善<sup>△</sup>で<sup>△</sup>は<sup>△</sup>た<sup>△</sup>た<sup>△</sup>い<sup>△</sup>ま<sup>△</sup>よ<sup>△</sup>り ~~.....~~ 年<sup>△</sup>ほ<sup>△</sup>ん<sup>△</sup>に<sup>△</sup> ~~.....~~  
~~.....~~ 中<sup>△</sup>1<sup>△</sup>巻<sup>△</sup>か<sup>△</sup>ら<sup>△</sup>中<sup>△</sup>20<sup>△</sup>巻<sup>△</sup> ~~.....~~ 20<sup>△</sup>巻<sup>△</sup> ~~.....~~  
~~.....~~ 再<sup>△</sup>版<sup>△</sup> ~~.....~~ 出<sup>△</sup>し<sup>△</sup>た ~~.....~~ 推  
 誌<sup>△</sup>の<sup>△</sup> 再<sup>△</sup>版<sup>△</sup> ~~.....~~ という<sup>△</sup> も<sup>△</sup>の<sup>△</sup> は<sup>△</sup> コ<sup>△</sup>-1<sup>△</sup> ~~.....~~ の<sup>△</sup> 数<sup>△</sup>学<sup>△</sup> 雑<sup>△</sup>誌<sup>△</sup> の<sup>△</sup> 中

感じ

538

専行

ま<sup>△</sup>で<sup>△</sup>を<sup>△</sup>, 再<sup>△</sup>版<sup>△</sup>して<sup>△</sup> 国<sup>△</sup>際<sup>△</sup>的<sup>△</sup>に<sup>△</sup>

しつぱい

輪をこくと

これは流中流に... 私は非常に驚いて... ~~...~~

ます

とを考へて... なるほど人間というものは... 自分たちが歴史を作っていくのだから... 何も政治ばかりではなしに、学向上の歴史も自分たちが作りつつあるのだから... 深く感じております。

東大

以上、新興の大学として東北大学のことを申しました... 京都大学は創立のころはやはり東京大学出身の河合十太郎、三輪木一郎、吉川実夫、この三人の方が教授、助教授であります

539

?



ところが東北大学のごとく遺憾なきことには先生たちは一所懸命な努力、学生の質が、少くも大正年間  
 の半ばごろまでは、あまりよくなかつたこと  
 です。(卒業生から小島鉄蔵君のような、  
 偉大な人が出たとしても、一般的には)つまり  
 大学の解放という擧長の英断が、影響して、  
 初期の、同年度のいた学生が、入つてきたの  
 です。それからです。1920年の掛谷先生が  
 東京高師に轉じ、1921年の小島君が、惜しくも  
 わかしくして逝かれました、助教教授として、東北出  
 身の岡田良知君のほか、京都大学出身の高須  
 鶴三郎君を採擧するようになったのです。



〇と〇で 1912年東京では

藤江先生、<sup>数学セミナー (25x10)</sup> が 入 り ま し た 。

No. 25 大学

~~現出された先生として竹内端三さん~~ (しかし東京は)

~~とちらかといふと~~、若い出身者の第一級の人たち<sup>か</sup> <sup>多く</sup>

~~京都~~ <sup>や</sup> ~~東北~~ ~~から~~ ~~と~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~

どちらか  
というところ

から、表面的には割合に沈滞した ような 空気 が あ っ た 。

零分

~~中~~ と こ ろ か ら い ま し た 。 そ の 中 か ら 新 し い し め ら れ た

人たちが<sup>か</sup> 出 て く る よ う に な り ま し た 。

~~高木貞治先生~~

の群 体 論 と い う 世 界 第 一 級 の 仕 事 が 1 9 2 0 年 に 発 表 さ れ た こ と で す 。

このようにして、1920年代に入ると 東京大学から

~~高木先生~~

~~1920年~~

よに見えました。

その原因はいろいろあり  
まじよるが、一つの

辻正次、末岡惣一、吉田洋、清水辰次郎、正田達次郎、  
弥永昌吉 〇〇 ところの人々が来て頼りました。そして  
東京大学は非常に若い、これは左大学の人々の  
りでした。

小堀憲

〇〇も、そのころに り 京都大学は 榎谷垂養、  
岡潔、秋月康夫、岡村博のよき方々を、東北大学  
も 河口商次、泉信一、(中国からの留学生 陳建功、蘇步青)  
のよき新進を出しております。

そして一方では 東京、か 廣島の 高師範、文理科  
大学が生まれ、~~大阪大学~~、大阪大学 ~~や~~ 北海道  
大学の 数学科が つくられる 気運に向かっています。

〇以上の申上げた人々のほかにも、東京高師の  
国枝元治、生命保険界の 亀田豊治郎、

留学後

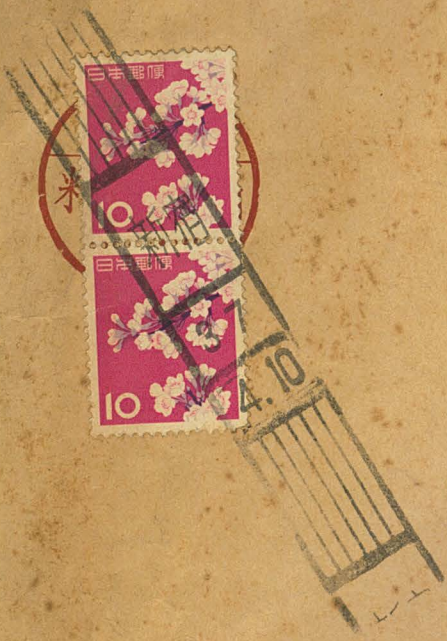
第一高校  東京商科大学  の這江派一節 左どの  
方々は、東京大学の出身者でした。

これまでに私は大学出の数学者も ~~多く~~ 中心として  
述べてまいりましたが、そのほかに  多く  明治の  
末期から大正の中期まで  民間の数学者  がお  
りました。まず 遠藤利貞 や 川北朝鄰 の よき  
和算家。ほとんど独学で勉強された 沢山勇三  
郎 先生 の よき 人 也。福沢諭吉 の お子 さん の  
福沢三八 さん の よき 変り種 (イギリス、ドイツの留学)  
~~また~~ 三上義夫 さん の ~~よき 人 也~~ 左では、  
また  
1913 年 の ドイツ か、1914 年 の アメリカ か、中国 や 日本 の 数学 史  
を  著 せ ぬ、1929 年 の 国際 科学 史 年 会 合 の  
 アジヤ における 唯一 人 の  委員 として 選 挙 さ れ て い た  
ので した。

# 数学セミナー

杉並区厚橋二ノ三

小倉金之助 様



経済評論・法学セミナー・経済セミナー

## 日本評論新社

東京都新宿区(新宿局区内)須賀町14

TEL 341-6161 番(代表)

振替東京16番